

第9回金山駅周辺まちづくり構想懇談会 議事要旨

○日 時：平成28年7月6日（水）9時30分～11時30分

○場 所：名古屋市役所西庁舎12階 第10会議室

○参加者：18名（随行者、傍聴者、事務局等除く）

1. 金山駅周辺まちづくり構想（素案）について

発言者	内容
(事務局)	資料1の説明
松本委員	変更点が大きく4つくらい出されていた。全体的に何かご意見等があるか。
観光文化交流局 文化振興室長	p. 47、48 経緯と考え方について説明する。ボストン美術館については当初正式に契約終了という話はしないということで、このような曖昧な表現をしてきたが、事業を終了することが公表された。それを受けて今後は積極的に意見を伺っていくという段階なので、にぎわいの拠点・にぎわいづくりには生かしていきたいということを含め、そのような表現にしている。地域のにぎわい作りに利用できる活用を今後考えていきたい。
松本委員	表現として地域の未来作りに起用できる活用方法について検討を進めていくという事でどうか。表現とは別にこのような使い方ができるのではないかなど、参考に何かないか。
観光文化交流局 観光推進室長	全体を通してまとまってきた。金山南ビルの話はまだ分からないが、是非栄・名駅とは違う拠点になるには交流拠点にはふさわしいと思うが、芸術・文化という交流のキーワードになるというところでどう利用していくのかというと、建物の収容の仕方がひとつと広場空間の使用を誘導していくことがキーワード。広場空間が金山の駅の両側にできるが使い道についてはある程度イメージを具体的に示してこんな使い方をしてほしいというメッセージ性が必要。p. 57 オープンスペースはオープンスペースだから何でも使ってよいかというとそうではない。オープンスペースという表現を、例えば何のためのオープンスペースか文化・芸術を育むためなのか明確にすることが必要ではないか。
松本委員	オープンスペースの性格がまだはっきり決まってない。北と南は多少違うと思う。その使い道がやはり栄や名駅とは違うと

	いうあたりである。もう少し庶民的な住民と関係の強い広場ができたらいいのではないか。例えばお祭り広場・芸術の森・噴水広場など、もっと使い方という親子が来るとかあるいは芸術家・大道芸いろんな方が使うと思うが、そのあたりの性格付けをできるとよい。その他にいかがか。 私が思ったのは南の広場に出ると美術館だと看板で分かるが、中身は何をやっているか良く分からない。広場から建物の中へ誘導するというのは美術館というサインでしかない。そのあたりはちょっと寂しい。 それからその形を変えられるかどうか分からないが、ボストン美術館の後を使うときは広場との関連がよく分かるような、それは物理的な話だがそういうものにしておく使い易いのではないか。 それから、広場との関係で決まっていくということもある。文化・芸術・創造。創造もできれば分かりやすいところがよい。具体的な形にするのは難しいがここに住んでいる方や若い人たちが好んで集まってくる。それから高齢者の方がそういう姿を見ながら過ごせる。そうすると世代を超えた空間になってくるとよいわけだがそればかりではなく、芸術や大道芸も必要。先ほどのギャラリーみたいなものも必要。
前川委員	私もボストン美術館や市民会館を利用させていただいている。美術館というのはなかなか収益が上がらず新しい美術館というのも経営困難かもしれないが、あくまでも市が持っていて、芸どころ名古屋としてはいつも名古屋飛ばしが起こっているため、遠くからの香りの高いものに移っていくとありがたいと思う。また、今後のキャッチフレーズというか、キーワードというのはやはり防災と健康と子供だと思う。利益は薄いですが、名古屋市が努力いただいてあくまでも守っていただければ、ありがたいと思うので、どうぞご検討をお願いします。
松本委員	からくり人形でよい分からないが、そういう地盤があるところなのでそういうもので名古屋になっていればそれを中心にはできる。これは祭りがテーマだがここで書くには難しい。そういうアイデアをいろいろ持ち、にぎわいと文化芸術、それから、創造。過去のものばかりやっていると創造ができない。過去のものトレンドの中に創造すると独創性が出てくるのかもしれない。

鈴木委員	細かい表現になるが、これらの話は文化芸術や創造等拠点の集客性向上の中に位置づけてある。にぎわいの話は（１）にぎわいの継承・発展に別枠で記載されているため、先生方のおっしゃられたような文化芸術・創造拠点などで集客性が上がるという話で通すほうが表現としてきれいかと思う。文化芸術・創造拠点の部分で具体的な案が出るかは悩ましいところだが集客性に関する記述にさせていただくのがよい。 地域の歴史的な話は実はあまり表に出てきていないので、ボストン美術館のところで活用し、その地域の拠点のような形で行くのであれば創造性の関係で、例えば大学生や高校生や小さいお子さんの成果を示したり披露する形で文化・創造といったキーワードに繋げていくような活用もあるか。ここで書くべきことなのかは別だが。
松本委員	p. 57、p. 58 あたりでは歴史施設がちょっと離れているが創造とボストン美術館の広場の利用が多少繋がってくると歴史施設のあたりのところがなんとなくみえてくる。歴史施設とは何かという話が出ており、説明があったかと思う。このあたりの説明はどこかに入れた方がよいか。
住宅都市局 まちづくり企画課係長	今、歴史施設というと p. 34 主な地域資源というところがある。その一番下に金山神社ということで地名の由来の神社ということで記載している。昨年の資料で歴史拠点と記載していたが拠点というより施設ではないかということで現在金山神社のことを歴史施設というような表現にしている。
松本委員	少し歴史が入り込むような、例えば、金山南の方の商店街あたりのにぎわいのようなもの、金山らしさはあの辺りにあるのではないか。地元の方がよいところだと思っていけばそういうものを続けていくような表現がよいのではないか。
住宅都市局 まちづくり企画課係長	p. 44 は地域内というよりも、金山の南の方で人の多く集まる熱田や白鳥とのネットワークということで表現しており、中での表現は改めて検討をする。
松本委員	鈴木委員から指摘のあった p. 48 の地域のにぎわいづくりに寄与できる活用方法について検討するというあたりは（１）にぎわいの継承・発展の方に記載する内容ではないかということだが、このところはどうか。

住宅都市局 まちづくり企画課係長	事務局としては、地域のにぎわいづくりに寄与できるというのを地域の集客性向上とか集客づくりといった書き方であれば、このカテゴリ中のままで表現できるのではないかと考える。
松本委員	いかがか。p. 48 の地域のにぎわいづくりに寄与できる活用方法について検討を進めていくというのは、集客性向上を進めていくという表現に変えたいということによいか。そういうことでこれについて変更する。 それから次の2つ目の変更点 p. 58 とか p. 61 とかの歴史施設のあたりである。それは少し丸を p. 58 にずらし、またぐような形にできるか。
住宅都市局 まちづくり企画課長	具体的には金山神社のところを示しているが。エリアとして捉えるという意味なのか。
松本委員	地図の中に金山神社が入っているか。
住宅都市局 まちづくり企画課長	金山神社そのものが入っている。
松本委員	それでは、変更はしなくてもよい。 そして、p. 57 から p. 58 のあたりのところ、あるいは p. 59 から p. 60 のあたりはどうか。
観光文化交流局 文化振興室長	p. 58 中の下側の芸術創造拠点があるが、今、ボストン美術館が入っているので、確かに芸術創造拠点だと思うが、ボストン美術館のあとの利用については先ほど話したように、集客性向上のための施設なので、あまり用途を限定する表現をしない方がよいと思っている。集客向上拠点とか何か違う表現にした方がよいと思う。
住宅都市局 まちづくり企画課長	今、基本方針の4本柱（2）で「文化芸術創造拠点」という名前を出している状況だが、その拠点到①②③の内容を含むという意味の固有名詞として捉えてこの名前をつけさせていただけると有難い。 他の名前にすると今4本柱と各3本の施策との関連性が曖昧になってしまうという思いがある。
松本委員	基本方針の反映だが、他の（1）や（3）や（4）には特に反映されていない中で、（2）だけここで反映すると言われるとどうかと思う。オープンスペースという表現があったりす

	る。同じように考えれば歴史施設もそうで、それだけ基本方針に反映と言われてもどうかと思う。 逆に基本方針をこの図に表すとすると、にぎわいの継承・発展、地域防災力の強化、それから交通結節点の機能強化、文化芸術や創造等拠点ということで金山南ビルの活用。金山南ビルは両方入るとよいか。ちょっと大きく変えると難しいところがあるが、基本方針に合うのであれば、色があっている。 p. 40 の色と p. 58 の色が合うので、色に沿った命名になっていると良い。ゆえに、オープンペースというのは地域防災力の強化だけではなく、たくさん入ってくる。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	前回の構想案から今回の大きな変更点として p. 57 概念図で広く捉えてもらうことを目指している。これと p. 58 を対比してみると金山南ビルが曖昧で、無くても表現ができるのかと少し混乱している。例えば p. 58 金山南ビルのところが文化芸術創造拠点としておき、p. 64 には金山南ビルとしか書いていないためやや不明瞭になっている。例えば p. 58 は一旦丸をつけて金山南ビルを残す表現もできるのではないかな。
松本委員	金山南ビルのところが文化芸術創造拠点にこだわる必要はない。これに関しては事務局と観光文化交流局で調整していただきたい。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	ご指摘のとおり。一旦懇談会後に細かい表現も含めて皆さんにチェックしていただく時間を取ろうと思っている。その間に観光文化交流局と表現について再度協議する。
松本委員	p. 57、58 金山南ビルの表現は変更していく。 以前から回遊性という、くるっと回ってくるっと帰り、同じ道を行くのではないほうがよいという話が出ていた。p. 57 に、てんてんてん、と表現されている。二つ上下に回った 8 のように見えてくる。名古屋の八が数字の 8 になっているような。p. 58 も回遊性を狙った表現になっている。土地利用構想の機能配置イメージなのでこれにいろんな機能がついているという表現になっている。p. 59、60 は 8 が崩れて梯子のようになっているが、上と下の点々を少し小さくすると 8 に近づき末広がり のよいイメージになる。そういう願いをこめた 8 の字型の回遊性になる。あまりに丸が閉じていると丸の外との関連が無いように見えてしまうため矢印が丸から飛び出ていることにより、周りに広がっていくイメージである。

松本委員	名古屋駅は地下が発展している。金山はどうか。地下の話が抜けてしまったことが反省としてある。今まで金山の地下のイメージは市民会館へ抜けるだけの地下だったが、これをどうするのかというのがあまりこの構想の中に入っていない。名古屋駅があればできるなら金山でもできるのではないかという感じがする。
名古屋まちづくり公社 経営企画室経営企画室 長	地下街の記述が無いのはご指摘のとおり。個人的に思っていることになるが、名駅・栄は地下街が発展し、地下街の人通りが中心になっている。アスナル金山では、地上ににぎわいをということで歩行者を地上にというのを目的のひとつにしている。地下街も大切な部分ではあるが地上に人が出て歩いているというのも街のひとつの光景として優れているのではないかな。地下街は専門外なためどう答えればよいか分からない。
交通局 資産活用課長	地下にある交通局施設の中に地下街というようなひとつのブロックに交通局の施設を外郭団体に貸し付けて利用していただき経営している。 名古屋・栄のような地下鉄の長い通路がなく限られたスペースなので、なかなかにぎわいからは遠い。施設を大幅に触るのも厳しい。
松本委員	地上のにぎわいが重要であると記載はすべきかと思う。
住宅都市局 まちづくり企画課長	記述は確認する。シンボル軸に設定しているのは、まさに人のにぎわいを地上に持っていきたいという思いがあってシンボル軸を作成し、歩行者のメインストリートとして表している。地上に関しては栄・名駅でもそうだが名古屋の町で人の動きを地下にもぐっていたのを一人でも地上に出したいということがあり、金山を地上がにぎわう街にしたいというのが第一にある。今後、市民会館の建て替えや、市民会館の跡地を開発する際には、場合によっては建物の地下街が商業施設ということもあるかもしれない。駅から連続した地下になるという期待はもっているが、今、構想の段階で建物の地下の部分まで言及するには時期尚早という思いもある。
松本委員	p. 39、41 にぎわいのところに「地上を歩くこと」、「地上のにぎわいを」と入れられればよいのでは。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	p. 63 3 つ目の段落で利用者には地上を歩いてもらうという書き方をしている。

松本委員	金山の特徴である。名駅はどんどん地下にもっていき地上が歩きづらい。金山は地上が歩ける。金山のコンセプトとまではいかないが背景に思想としてあるとよい。
鈴木委員	地下鉄から地上へという話でもある。交通結節点という意味合いでは地下から地上へ上げるというような話もあったほうがよい。地下空間をうまく利用するという意味では地下鉄から地上へ出てくる方への配慮もこれまで以上に行う。p. 53、54、56などで、例えば外国人の方が栄から来て空港に戻っていくことをイメージすると地下から上がってきて乗り換えるなど、そのようなイメージにこの文章の表現はなっていないように感じる。記述を入れるのはどうか。
松本委員	指摘の箇所は表現を修正する。 地下街だと特徴が出しづらい。スウェーデンのように地下鉄に絵を描いたら表面的な特徴は出るが、地上に出るとそのものが特徴になってくると思う。その意味では特色あるまちづくり文化・芸術・創造というのが目に見える形になる。その辺のところで地上を歩くというあたりを何箇所か入れていくとよい。
交通局 経営企画課主幹 (企画調整・外郭団体)	p. 71 ケース②③④女性ばかりである。嫁や主人などの表現が気になる。随所に美術館という表現が p. 72、74 に出てくるが将来像としてどうかと思う。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	実態としては継ぎ足しできた。ケース②についてもアンケート結果を参考に創造して書いた。全体を見てバランス感や表現を整理していく。
松本委員	美術館がなくなった後、美術館ができればよいが。将来像は将来の夢である。p. 72 はそのままよい。
松本委員	p. 67 から p. 70 まだが前回までより分かりやすくなっている。このあたりで指摘があれば。
東海旅客鉄道株式会社 企画開発部担当副長	緊急整備地域に指定してもらう目的があるが、この記述を読むと p. 68 都市再生特別措置法に基づく都市再生安全確保計画等の策定について議論するとあるが、緊急整備地域に指定されると都市再生安全確保計画を作らなければならないという認識でいる。p. 67 からを読むとまずは緊急整備地域に指定してもらうという前提がない中で p. 68 に都市再生安全確保計画等を策定するという形になっているので、p. 67 に緊急整備地域に指定されることを目標とするという文章を書いた上で p. 68 に繋

	げるべきと思う。
住宅都市局 まちづくり企画課企画 係長	ご指摘のとおりである。表現を改める。緊急整備地域でなければエリア防災計画という形でも可能である。指摘の点は修正する。 p. 67 に都市再生特別措置法が出てくるが、これを指定してもらう時期は未定。指定していただくことを目指す方針である。
松本委員	p. 67 四角の図が固い。線も細いため、もう少しやわらかくなるとよい。
前川委員	p. 56 今後に関して女性が市民会館や美術館・オープンスペースに遊びに行くことが多いと思うが保育所・子どもや老人を預かってくれるところを来街者のサービスに入れていただけると女性が活躍してくる場所が増えてくると思う。例えば、市民会館のところにオフィス街ができた場合にそういうことが必要だと言入れるとよいと思う。
松本委員	来街者が来たときに困ることがあるため、女性や高齢者・体の不自由な方等に目を向けた表現をどこかに入れたい。ページに文字の余裕があるため。女性・弱者・子育て世代が授乳室やオムツを変える場所など。
住宅都市局 まちづくり企画課企画 係長	p. 53 にユニバーサルデザインなどの思想のことが書いてあるので、交通結節点の機能として、どういう形で書けるか検討する。
松本委員	いろいろなデータがあるためひとつずついっぱいにしていく。
松本委員	p. 71 には高齢者のケースも入っており、全体を通してなかなかよくまとめた。p. 71 から p. 74 は表現を変更するということでよい。
名古屋鉄道株式会社経 営戦略部課長	弊社にとって金山は、空港線を担う鉄道会社として世界とつながっている街でもあり非常に重要な拠点である。名駅・栄に対してこういった形で個性を出していくか資料の中でもいろいろと記載があるが、最大のポイントは居住エリアとの近さである。インバウンドという目線で見ると日本の生活を見に来たいという形にシフトしてきていると思う。その中で名駅は箱物であり、栄は商業とセントラルパークもあるが昔からの住居とは少し離れてしまう。金山は交流の拠点として、住民及び鉄道

	を利用する客が集まってくるので、外国のお客様との交流ができる仕掛け作りをしていけたら面白い街になっていくのではないか。例えば現地の生活を外国の方が覗きに行くような雰囲気はアメリカのポートランドである。観光客が多い中でも観光地を見に行くというより生活者の中に入っていく。例えばファーマーズ・マーケットであったりいろんなコミュニティの中に入っていく。その意味では先ほどの広場等もこのエリアに住んでいる方のコミュニティが自然と出来るような仕掛けがあるとよい。こういう事業で箱物中心の場合、昨今の建設コストで行くとこれに見合う賃料が払える方は大きな資本をお持ちの方になる。収益性は非常に重要であるが、地域コミュニティも重要である。ここにお集まりの皆様が一緒になってこれからの名古屋の金山を作っていく事業とすると市民のコミュニティができていき、そこへ新たな交流者が入ってきて街の魅力が増していくような拠点になっていく。公共交通事業者として街づくりに貢献していきたい。
松本委員	外国へ行き観光地ばかり見るのではなくその人たちがどういう生活をしているのかのぞいてみたい。北京、上海など高いビルがありその下には昔ながらの生活がある。金山でのぞいてみたいところはあるか。
名古屋鉄道株式会社経営戦略部	歩いていて懐かしくわくわくするところもあり、非常に不思議な街だと思う。
松本委員	南の方は歩いたことはないが面白い。歴史施設のあたりが金山の特徴ではないか。そのあたりのことがよいバランスではないか。外国の方と特にヨーロッパの方、中国の方が観光地に多い。ヨーロッパの方はお金をおとさないということもある。
住宅都市局 まちづくり企画課長	p. 70 に地域主体によるまちづくりとあるが、様々な地域で、地域住民の方、そこで商売をされている方、その地域に根付いていろいろ活動されている方が主体でハードだけでなくソフトを含めて街づくりをしていこうと取り組みが進められている。金山でもそういうことを考えていきたいということで、金山地域プラットホームや、金山地域まちづくり協議会という記載をしている。いろいろなアイディアや意見が聞きたいと思っている。
松本委員	インバウンドの話について、これから世界に広がっていき世界から入ってくるので、そういう日本を目指してという思いが

	ある。p. 41 にぎわいの継承・発展があり始めのほうにあった外国人のインバウンドの話の表現がどこかに入ってくる。したがってにぎわいの継承も入ってくる必要がある。これからの金山像は交流であり日本だけではなく世界との文化交流・人的交流というあたりである。
住宅都市局 まちづくり企画課長	にぎわいの継承・発展のところで、インバウンドについても表現している。今後、都市機能を集積していく中で金山の公有地の開発を行っていきながら発展していけたらと思っている。
松本委員	国際化、あるいは世界との交流拠点についてはどうか。
住宅都市局 まちづくり企画課長	構想の趣旨に記載しているように、金山は歴史的な軸と、これからの重要な人の動線軸の交差点にあるということを念頭に置きながら構想を策定している。国際化は課題として認識し、表現が不足しているところがあれば補いたい。
松本委員	ひとつの方向として世界の金山という視点が出てくるとよいと思う。
前川委員	日本の生活が見たいということで、それと一緒に現在、民泊の問題も大きく規制緩和されておりエアビーアンドビー（Airbnb）を使って民泊関連で非常に経費が上がっているということもあるため、民泊ということを含め、日本の生活をただ見るだけではなく泊ってみるなどもできればよいと思う。
松本委員	楽しいところで夢が膨らみいろいろ注文が出てきてしまうが全部は入らないにしても夢を盛り込むのはよいのではないか。味の金山、名古屋飯、一流の食事という感じのあたりが金山にはできるのではないか。
名古屋観光コンベンションビューロー コンベンション部長	前回、前々回と話していたホテルについて、表現しにくいといわれていた宿泊機能の導入・充実などの表現も入れていただけた。飲食店舗・宿泊施設という表現となっている部分で、機能充実がはかられる方向で記載しているようになったので良かったと思う。ホテル・レストランとか適切な表現ができればよいのだが非常に名前をつけるのは難しいということで精一杯反映していただけたと思う。先生方の話にあった国際化や海外の交流拠点といった視点と同じようなことだが p. 56 来街者向けサービスの提供の中に名古屋の国際コンベンションゾーンという表現も加えて入れているので、このあたりにも国際化や海外の交流拠点も崩して追加して入れていただけるとよいのではないか。

松本委員	文章が少ない。ユニバーサルデザインの話と国際化の話を、来街者に向けてどういう方がくるか分からないが、そういう方に対しての配慮をもう少し入れるとよい。
交通局 電車施設課長	初めて参加した。担当は地下鉄だが、その面で施設、サイン関係、などいろいろ頭に浮かぶが金山という地区を展開して、少しでもできることがあれば協力していきたいと思っている。
交通局 自動車施設課長	p. 58 以降、前回まではシンボル軸・にぎわい集積軸が矢印を定規で引かれていたということで、それはそれで概念としては分かりやすかったが見ていて違和感があるとも思ったが、すべて青い点に変わったところを見ると一つ一つが人というかにぎわいにしてもなんにしても金山を作っていくのは明らかに人であるからそういう意味ではこの形は大部分ソフトになって人が集まってにぎわいを作っていくというイメージは非常にしやすいように感じた。一方でシンボル軸という軸が若干分かりにくい。どちらをとるかでやむを得ないことだろうと思う。
緑政土木局 企画経理課主幹 (企画調整・外郭団体)	ハード整備と、その後の利活用という立場から話をする。金山の特徴として、複合居住ゾーンをとりいれたということで、そこに住んでいる方の利便性、使われる方の便利さを追い求めていただきたい。その中で私どもの項目があると認識している。今回についてはすでに使われている古沢公園を新たに設置するため、今住んでいる方への配慮をしっかりといただきたい。もうひとつ地域主体のまちづくりができてからのことだが、行政とのかかわりというのはどこのまちづくりでもそうだが、地域まちづくりも区役所とのかかわりも大きいことがあると思っている。その課題の解決に向けたプラットフォームの活用も行政の関わりということで、p. 70 の等というのが控えめだが行政としての関わりを感じられたかと思う。そういうところでご配慮いただけたらと思う。p. 60 駐輪場となっている表現を直す。他は自転車駐車場。
防災危機管理局 危機対策室	防災の面で基本方針のひとつあげている。この地域の金山で問題となってくるのは東日本大震災のとき首都圏で問題となった帰宅困難者もこの地域でも問題となるため防災の基本方針の中で一番重要である、という記載がされているので大変よいと思う。
松本委員	これでだいたい素案がまとまって来ると思われる。いろいろな意見を踏まえ最終的なものを作成していく。

2. シンポジウムの概要（案）

(事務局)	資料 2 の説明
松本委員	シンポジウムで広く皆さんに知っていただくことになる。これに関してご意見はあるか。
住宅都市局 まちづくり企画係長	今回の資料構想案についての修正意見をまとめて、9 月以降になるが、議会報告をさせていただきたいと考えている。その後、シンポジウムを今年の冬に開催し、その意見を踏まえ最後の懇談会を年度内に行う。名古屋都市センターのホールはよく使う会場で 150 名から 200 名程度は入れるため広さも丁度よいのではないか。
鈴木委員	シンポジウムで広く意見を集めると話がある。ホール自体に 150 から 200 という人で人が入ることは分かるが、近隣者が別の会場で行うとき、来られる方は熱心な方が多く集まると想像できる。金山駅を使う大多数の方が来るとはいえないため、駅からの連絡通路橋などで、その日や前日にシンポジウムを行うというブースを出したり、意見を集める場を作ることも必要ではないか。都市センターの中にホール以外のスペースでも人が集まれる場所があると思うのでシンポジウムの少し前に特別展などを行い周知する、あるいは市民会館で PR をするなど広く皆さんの目に触れるとよいと思う。シンポジウム自体をといてより、いろいろな人にまちづくりの構想を知っていただくというところに主眼をおいたところに工夫ができるとよいと感じた。
住宅都市局 まちづくり企画課長	貴重な意見をいただいたので、前向きにできることを考えていきたい。
松本委員	堅苦しい感じではなく気楽にやれるようにし、普段は金山に遊びに来ている人にも金山の利用者の方にもお忙しいとは思いますが、参加しようかと思えるようなことをこれから考えていかなくはない。200 人を集めるのは大変だと思う。なかなか難しいと思うが、集客方法を考えていきたいと思う。その他について、最後のシンポジウムは大分後になるため、何か言いそびれたことなど意見はあるか。

3. その他

東海旅客鉄道株式会社 企画開発部副長	いつもは後ろで聞いていたが、皆さんの議論を近くで聞かせていただいた。非常にまとまってきた。今後、いよいよ素案をもとにシンポジウムが行われていくので、そこでいかに地域の方々がまちづくり構想に興味を持っていただけるかということが、今後、名古屋市は頑張っていく部分なのでよろしくお願いしたい。
名古屋鉄道株式会社 会社経営戦略部課長	初参加であるが、構想の冊子を拝見し、皆様が活発な意見をされながらできてきたものということで、今後の金山に非常にわくわくした気持ちをこの場で改めて感じた。弊社としても、しっかりと皆様方と推進していきたい。
住宅都市局 都市計画課長	都市計画課としての感想・意見として申し上げる。p. 57 土地利用構想をイメージし、金山は皆様ご承知のとおり名古屋駅に次ぐ情報の多い、出入りも多い集積する場所で名古屋の顔であると考え。名駅はリニアを向かえまちづくりを進めていくところだが、金山は名古屋とは違う住み分けをするようなところかと思う。今北と南のオープンスペースは非常に貴重な土地空間になっている。土地利用は工業化をしたり集積したりということが主な目的だが、その中においてもこのオープンスペースは金山の貴重な土地空間であると感じている。そこをうまく活用したまちづくりがキーになってくると考えている。土地利用の構想・イメージを考えていきたい。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	スケジュールを説明しているが、本日の資料に対しての意見を1ヶ月ほどとる。8月5日（金）までに内容と表現についてや議論の意見について個別の意見を徴収する。懇談会は、最後として次回、第10回目をシンポジウム後の冬に行う予定をしている。
住宅都市局 まちづくり企画課長	本日は、大変熱心な議論いただきありがとうございました。昨年度より今回にわたり議論を重ねご意見いただきこのような形でまとめさせていただいております。厳しいご意見や貴重な意見をいただきありがたく思っています。これから懇談会から外へ提示していき広くご意見を伺うことが必要になっていきます。今後、調整などお願いすることになると思いますので引き続きよろしくお願い致します。